

Express5800/R120h-1E (2nd-Gen) Express5800/R120h-2E (2nd-Gen) ご使用時の注意事項

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品のご使用において、ご注意いただくことがあります。誠に恐れ入りますが、ご使用前に本書の内容を必ずご一読ください。

なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

■ 注意事項

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、下記サイトに掲載しているマニュアルに記載しています。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」より、以下の ID で検索してください。

R120h-1E (2nd-Gen) : 3170102321

R120h-2E (2nd-Gen) : 3170102322

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)/エクスプレス通報サービス (MG) に関しては、

ESMPRO 日本語ポータルサイト<<http://jpn.nec.com/esmsm/>>

NEC サポートポータル<<http://www.support.nec.co.jp/View.aspx?isIntra=0&id=9010102124>>
の最新の情報およびバージョンをご確認の上、ご利用ください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。

Web に掲載されている内容を確認し、バージョン S8.10-006.03 以上を適用してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「S8.10-006」を検索)

なお、Starter Pack バージョン S8.10-004.xx, S8.10-003.xx, S8.10-002.xx (xx は任意の数字) は使用できません。

● VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi のドライバ・サービスモジュールは、以下 Web サイトに最新版が掲載されています。Web に掲載されている内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

1. Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver

<https://www.support.nec.co.jp/>

【最新版】と表示された【Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver (VMware ESXi 6.x 版) (x=5 または 7) を適用してください)

2. WBEM プロバイダ および CLI ツール

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポートポータル内検索」より、「WBEM プロバイダ」を検索)

【最新版】WBEM プロバイダ および CLI ツール (VMware ESXi 6.x 版) (x=5 または 7) を適用してください)

3. VMware ESXi デバイスドライバ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866>

(「PC サーバ/ブレードサーバ(Express5800 シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバー一覧」を選択)

● 本製品の保守作業時間に関して

本製品は、障害発生時等に伴う保守作業に際し、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバの組み合わせによっては、保守作業に時間を要することがあります。

● サーバ診断カルテについて

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月毎に稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack 内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

● 装置情報のラベルについて

本製品には、以下の情報を記載したラベルがサーバーのトップカバーのフロント側に貼られています。

- ・ 製品型番
- ・ 製造番号
- ・ QR コード
- ・ iLO のアカウント情報

保守に備えて、サーバーの設置前にこれらの情報を記録してください。

Express5800/R120h-2E 8x3.5 型モデル以外には、上記の情報を記載したラベルが装置前面のスライドタグにも貼られています。

● Product IDについて

Product ID とは、『N8100-2779Y』のような型番のことです。

● フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)の仕様変更について

本製品の搭載ファームウェアの更新に伴い、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)の仕様に変更があります。下記、変更点を記載します。

- CPU あたり DIMM 8 枚、もしくは DIMM 12 枚以外の構成であっても、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)が使用できる構成であれば、本装置は自動的に設定が変更し、同機能の使用を始めます。
- System ROM のバージョンが v2.10 以上、各チャネルあたりの RANK 数の合計が 2 以上になるようにメモリを搭載しなくても、フォールトトレラントメモリ機能(ADDDC)は利用できます。

● iLO の再起動を行う場合の注意事項

サーバー起動から OS の起動完了までの間 (POST (Power On Self Test) 実行中も含みます) は、iLO の再起動を行わないでください。

また、システム ユーティリティの操作途中も、iLO の再起動を行わないでください。

該当タイミングで iLO の再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。

例えば、システムユーティリティの設定変更途中に iLO の再起動(※)を行うと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しない場合や、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失する場合があります。また、POST (Power On Self Test) 実行中に iLO の再起動を行うと、iLO Web インターフェース：[情報]-[概要] ページにおける UUID、UUID (論理) が不正な表示になる場合があります。

＜ 対象となる iLO の再起動の方法 ＞

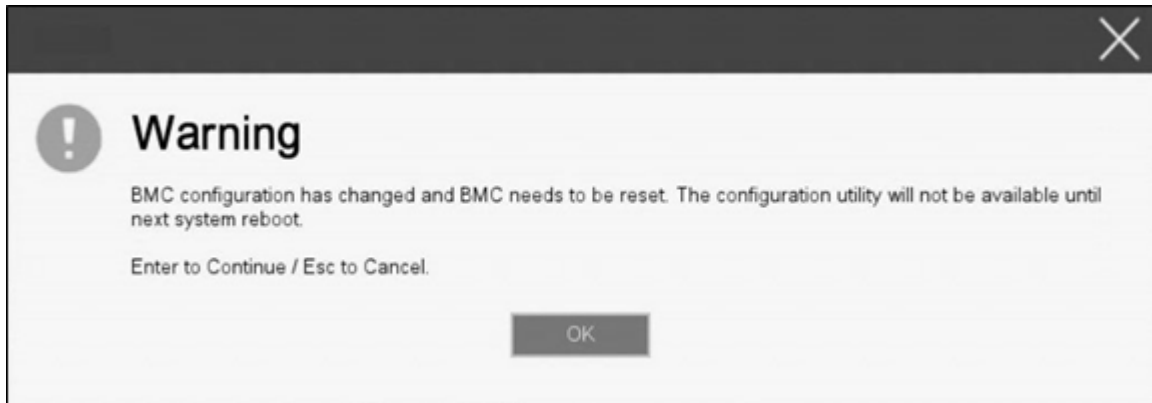
- iLO Web インターフェースなどを利用したネットワーク経由での iLO の再起動。
- UID スイッチ を使用した iLO の再起動。

※ システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後の iLO の再起動については、次項の「システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項」を参照して操作してください。

● システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項

iLO の再起動中に POST 実行や設定変更などの処理を進めてしまうと、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しないことや、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失することがありますので、システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更において iLO の再起動を行う場合は、以下の手順で実施してください。

- (1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLO の再起動を行うために、次の Warning (注意) ポップ アップが表示されることがあります。

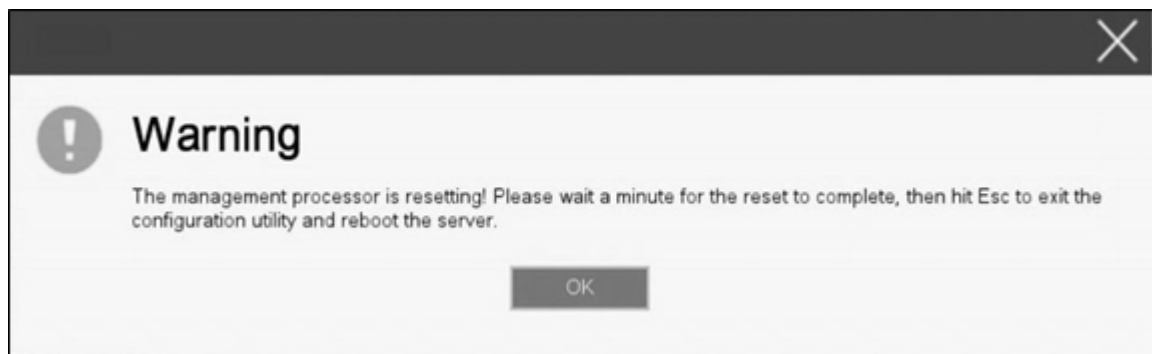


英語表示の場合



日本語表示の場合

- (2) 「OK」を押して進めます。
- (3) 次の Warning (注意) ポップ アップの表示になり、iLO の再起動が行われます。



英語表示の場合



日本語表示の場合

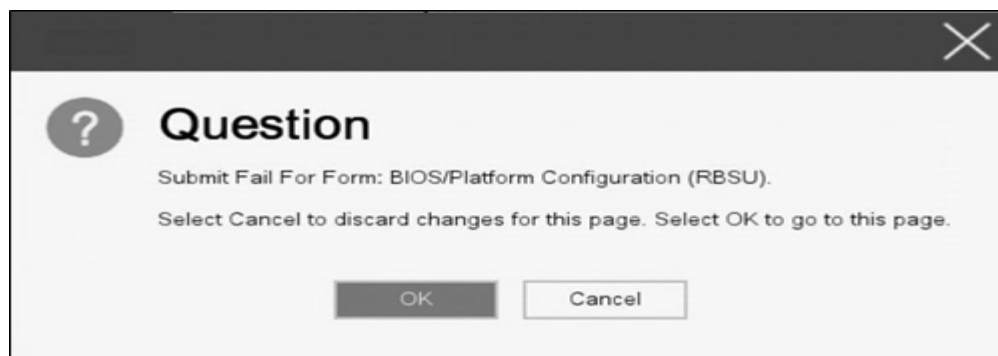
- (4) この Warning(注意) ポップ アップが表示されている状態にて、1 分間お待ちください。
- (5) iLO の再起動の完了 (ステータスランプが緑色で常時点灯) を確認してください。
- (6) 再起動の完了が確認できたら、「OK」を押してください。
- (7) <ESC>キーを複数回押してシステムユーティリティの画面に戻ります。
- (8) システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して再起動します。

iLO の再起動の完了を待たずに先に進めた場合、直後のシステム再起動処理 (Reboot) が正常に動作しないことや、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失することがあります。なお、iLO の稼働状態は、本製品の本体前面にあるステータスランプから確認いただくことが可能です。ステータスランプが緑色で点滅 (毎秒 1 回) している場合は iLO が再起動中であることを示します。ステータスランプが緑色で常時点灯している場合は iLO の再起動が完了し正常動作していることを示します。

● Submit Fail For Form の Question(質問) ポップアップ表示についての注意事項

システムユーティリティにおいて設定の変更中に、次の Submit Fail For Form の Question(質問) ポップアップが表示された場合は、「キャンセル」を選択して変更を破棄してください。

さらに、サーバーの再起動を行ってシステムユーティリティに入りなおしてから設定の変更を再度行ってください。もし「OK」を押してそのまま設定変更を進めると、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失することがあります。



英語表示の場合



日本語表示の場合

● 赤文字画面 (RSOD: Red Screen of Death)が表示された場合の対処について

装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合、OS起動前に稀に赤文字画面 (RSOD) が表示され、本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があり電源 OFF/ON によって回復します。

赤文字画面 (RSOD) が表示された場合、装置の電源 OFF/ON をお願いします。
なお、問題が解決しないときは、保守サービス会社にお問い合わせください。

```
X64 Exception Type 0D - General Protection Exception


RCX=AF000000AF000000  DX=0000000000000000  RB=0000000000000000  R9=FFFFFFFFFFFFFFFF
RSP=000000009CDEB6E8  BP=0000000098251FBE  AM=0000000098A45EAB  BX=0000000000000000
R10=0000000000000004  I1=FFFFFFFFFFFFFFFF  I2=0000000000000000  I3=0000000098251F00
R14=0000000000000018  I5=0000000098251F00  SI=AF000000AF000000  DI=AF000000AF000000
CR2=0000000000000000  CR3=000000009CD4B000  CR0=80000013  CR4=00000668  CR8=00000000
CS=0000003B  DS=00000030  SS=00000030  ES=00000030  RFLAGS=000102B2
MSR: 0x1D9 = 00004801, 0x345=000033C5, 0x1C9=0000001F

LBRs From To From To
01h 0000000098A2E792->00000000961F2191 0000000098A2E8FE->0000000098A2E778
03h 0000000098A3CD97->0000000098A2E8E0 0000000098A36D00->0000000098A3CD75
05h 0000000098A30855->0000000098A36CDF 0000000098A307F3->0000000098A3083E
07h 0000000098A30759->0000000098A307ED 000000009CDF51A8->0000000098A30744
09h 000000009CDF5183->000000009CDF519B 000000009CDF516A->000000009CDF517D
0Bh 000000009CDF514F->000000009CDF515B 000000009CDF6ECF->000000009CDF5136
0Dh 000000009CDF6CFC->000000009CDF6EC3 0000000098B91CA4->000000009CDF6CF8
0Fh 0000000098B91331->0000000098B91C9E 0000000098B91C99->0000000098B91330

CALL ImageBase ImageName+Offset
00h 0000000098A2D000 PlatformRecoveryApp+001792h
address out of range
```

赤文字画面の例

● iLOのセキュリティ機能の注意事項

iLO5ファームウェア1.43以上をご使用の場合、[Information] - [Security Dashboard]およびiLO Webインターフェース画面の右上部に  リスクが常に表示されます。
RBSUの設定やiLOの設定の内容次第で、iLOセキュリティの状態がリスク状態(赤色)で表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。
推奨値などの詳細については、iLO5ユーザーズガイドを参照してください。
ただし、『Require Host Authentication』設定については、iLO Webインターフェースから、[ホスト認証が必要]設定を有効に設定した場合の注意事項」に注意事項がありますので、ご確認ください。

● iLO WebインターフェースのUUIDの不正値表示について

POST (Power On Self Test) 実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェースの[Information]-[Overview]ページのUUID、UUID (論理)の値が稀に不正な表示となることがあります。
不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

● iLO Webインターフェースのネットワーク情報の表示について

ファイバーチャネルコントローラーが実装されiLO5ファームウェア1.43/iLO5日本語言語パック1.40が適用されているシステムで、iLO Webインターフェースの言語に日本語が選択されている場合、[システム情報] - [ネットワーク]で表示されるファイバーチャネルコントローラーの“ポートのステータス”が『下へ』と表示されます。
これはファイバーチャネルコントローラーの接続が『ダウン』の状態であることを示しますので、読み替えてご利用ください。

● iLOの時刻についての注意事項

iLO5ファームウェア1.45以下でiLOのSNTPの設定が無効の場合、iLOの再起動を行うとiLOの時刻がずれてしまう場合があります。
iLO WebインターフェースにてSNTPの設定を行い、ご使用いただくことを推奨します。
iLOのSNTPの設定方法については、iLO5ユーザーズガイドを参照してください。

● iLO Web インターフェースから [ホスト認証が必要] 設定を有効に設定した場合の注意事項

iLO ファームウェアバージョン：1.43 以上を適用した環境の場合が対象となります。

「セキュリティ > アクセス設定 > iLO」にある [ホスト認証が必要] を『有効』に設定する。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“Remote Insight/ Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack (Standard Program Package) を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報
- ・サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- ・iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● iLO ファームウェア1.43以上ご使用時の注意事項

iLO5 ファームウェア 1.43 以上をご使用の場合、[Information]-[Security Dashboard]に[Last Firmware Scan Result]が表示されますが、本ハイパーリンクをクリックしないでください。

誤ってクリックした場合、Web ページ内のメニュー間移動が出来なくなります。その場合、ブラウザーのリロードボタンをクリックするか、もしくは一旦 iLO Web インターフェースのログアウトを実行して再度ログインしなおしてください。

情報 - セキュリティダッシュボード

概要 セキュリティダッシュボード セッションリスト iLOイベントログ インテグレートドマネジメントログ

Active Health Systemログ 診断

全体セキュリティステータス: OK

セキュリティ状態: 本番環境
サーバー構成ロック: Disabled

セキュリティパラメーター	↓ステータス	状態	無視
セキュリティオーバーライドスイッチ	♥ OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI over LAN	♥ OK	無効	<input type="checkbox"/>
最小パスワード長	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>
iLO RBSPへのログイン要求	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
認証失敗ログ	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
セキュアブート	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
パスワードの複雑さ	♥ OK	有効	<input type="checkbox"/>
ホスト認証が必要	♥ OK	無効	<input type="checkbox"/>
最新のファームウェアスキャン結果	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>

日本語表示の場合

Information - Security Dashboard			
<div>Overview</div> <div>Security Dashboard</div> <div>Session List</div> <div>iLO Event Log</div> <div>Integrated Management Log</div> <div>Active Health System Log</div> <div>Diagnostics</div>			
<div>Overall Security Status : OK</div>			
<div>Security State</div> <div>Production</div> <div>Server Configuration Lock: Disabled</div>			
Security Parameter	↓ Status	State	Ignore
Security Override Switch	♥ OK	Off	<input type="checkbox"/>
IPMI/DCMI Over LAN	♥ OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Minimum Password Length	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>
Require Login for iLO RBSU	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Authentication Failure Logging	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Secure Boot	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Password Complexity	♥ OK	Enabled	<input type="checkbox"/>
Require Host Authentication	♥ OK	Disabled	<input type="checkbox"/>
Last Firmware Scan Result	♥ OK	OK	<input type="checkbox"/>

英語表示の場合

● VMware ESXiでTPMキットを使用する場合の注意事項

System ROM のバージョンが v2.00 (02/02/2019) 以上、かつ TPM キット (N8115-35) が搭載されている場合 TPM Mode(*1)は「TPM 2.0」にて、VMware ESXi をご使用ください。

もし、TPM Mode が「TPM 1.2」に設定されている場合、稀に PSOD (Purple Screen of Death) が発生することがあります。

(*1) 出荷時の初期設定は「TPM 2.0」です。

TPM Mode の確認および設定変更は下記メニューより確認してください。

- ・ System Utilities > System Configuration > RBSU > Server Security > Trusted Platform Module Options > Current TPM Type (設定確認)
- > TPM Mode Switch Operation (設定変更)

● VMware ESXi環境でのAgentless Management Service (AMS) の注意事項

VMware ESXi 6.5 または VMware ESXi 6.7 の環境に Agentless Management Service (AMS) version 11.4.0 がインストールされている場合、VMware Update Manager による VMware システムの更新が、/tmp ディレクトリへステージングするための空きがないことを示すエラーで失敗することがあります。/tmp ディレクトリの使用可能なディスク容量に依存する他のアプリケーションでも同様に失敗することがあります。VMware ESXi ホストの /tmp ディレクトリにある "ams-bbUsg.txt" ファイルのサイズが時間の経過とともに増加するためです。空き容量を確保するために "ams-bbUsg.txt" ファイルを定期的に削除してください。

※ファイルを削除した場合は再度ファイルが作成されます。また、VMware ESXi ホストを再起動した場合も当該ファイルは削除されますが、再起動後に再度作成されます。

/tmp ディレクトリの容量が 256MB である場合、2 か月程度で上限に達することがあります。1 か月に一度を目安に削除してください。

※ご使用の環境の/tmp ディレクトリの容量に比例してファイル削除の実施頻度を変更していただけます。

例) /tmp ディレクトリの容量が 512MB である場合、4 か月程度で上限に達することがありますので、3 か月に一度を目安に削除します。

本事象は Agentless Management Service (AMS) 11.4.5 で修正されています。

VMware のバージョンによって AMS のダウンロードサイトが異なりますので下記のサイトをご確認いただき、

AMS のアップデートを行ってください。

■ ご使用の OS が ESXi6.0 の場合

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010108698>

■ ご使用の OS が ESXi6.5 の場合

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010108699>

■ ご使用の OS が ESXi6.7 の場合

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=9010108700>

◆ /tmp ディレクトリの容量は以下のコマンドを実行することで確認することができます。“tmp”の行を確認してください。

```
# vdf -h
:
Ramdisk                Size      Used Available Use% Mounted on
root                   32M        2M      29M      7% —
etc                    28M       172K      27M      0% —
opt                    32M       564K      31M      1% —
var                    48M       448K      47M      0% —
tmp                   256M      276K     255M      0% —
:
```

◆ Agentless Management Service (AMS) のバージョンの確認方法には以下の 2 つの方法があります。

・ 対象装置の OS 上で確認する方法

(1) コンソール端末から以下のコマンドを実行します。

```
# esxcli software vib get -n amsd | grep Version
```

(2) コマンド実行結果から「600.xx.x.x-…」、「650.xx.x.x-…」などの xx.x.x の箇所を確認します。

・ iLO Web インターフェースを利用して、リモートから確認する方法

(1) リモート環境において、Web ブラウザーから iLO Web インターフェースにログインします。

(2) 左メニューの「ファームウェア & OS ソフトウェア」を選択し、「ソフトウェア」を選択します。

(3) 画面の「Product Related Software」の「amsd」のバージョンを確認します。

※「600.xx.x.x-…」、「650.xx.x.x-…」など、xx.x.x の箇所を確認します。

● Linux OSを使用する場合の注意事項

OSが自動的に認識するLOMやオプションNICのデバイス名を使用してください。独自udevルールを追加する際、PCIアドレスを基準にNICデバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。

また、PCIアドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCI アドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCI スロットへのカード増設/抜去、および、CPU 構成変更を行わないでください。PCI バスのアドレス情報が変化し、PCI 接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● 内蔵 DVD-ROM (N8151-137/138) 表示について

System ROM のバージョンが v2.00 (02/02/2019) 以上の場合は、Embedded SATA Configuration 設定(*1)を [Smart Array SW RAID Support] 設定時、運用環境により Disk Utilities メニュー(*2)に内蔵 DVD ドライブ情報が 2 つ表示されます。

どちらのドライブを選択した場合でも同じ内蔵 DVD ドライブの情報が参照できます。

(*1) 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration」

(*2) 「System Configuration > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > Disk Utilities」

● ESMPRO/ServerManager (Windows版) およびエクスプレス通報サービス (MG) に関する注意事項

本製品の iLO ファームウェアバージョンと、ESMPRO/ServerManager (Windows 版) およびエクスプレス通報サービス (MG) のバージョンの組み合わせによっては ESMPRO/ServerManager (Windows 版) および iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデートが必要になる場合があります。以下をご参照のうえ、アップデートが必要な場合は、最新バージョンにアップデートしてください。
各バージョンの確認方法については、本注意事項の末尾に記載します。

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) に関する発生現象

iLO ファームウェア	ESMPRO/ ServerManager (Windows 版)	発生現象
バージョン 1.40 以上	バージョン 6.25 未満	<ul style="list-style-type: none"> 構成タブ - サーバ状態 “SNMP 通報設定” が “取得に失敗しました” と表示される リモート制御タブ - iLO 情報 - IML の表示、IML の保存 IML 情報の取得に失敗し、表示および保存ができない アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに “不明タイプ” のアラートとして表示される
	バージョン 6.41 未満	<ul style="list-style-type: none"> アラートビューア ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害がアラートビューアに表示されない、もしくは “不明タイプ” のアラートとして表示される

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のアップデート方法

- (1) 以下より最新版の ESMPRO/ServerManager をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524>
- (2) 「ESMPRO/ServerManager Ver. 6 インストールガイド (Windows 編)」の「2 章 インストール」を参照して ESMPRO/ServerManager をアップデートします。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイル に関する発生現象

※エクスプレス通報サービス (MG) をご利用されている方が対象です。

iLO ファームウェア	iLO 管理機能向けの 受信情報設定 ファイル	発生現象
バージョン 1.40 以上	ilo_jp.mtb バージョン 1.1.0 未満 iml_jp.mtb バージョン 1.3.0 未満 ※iLO 管理機能向け の受信情報設定 ファイルは 2 種 類あります。	ファームウェアアップデートにともない追加されたハードウェアの障害を検知することができない。当該障害を通報することができない。 ※受信情報設定ファイルをアップデートされた場合であっても、ESMPRO/ServerManager がアップデートされていないときは、上記と同様に追加されたハードウェア障害の検知および通報ができない。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのアップデート方法

- (1) 以下より最新版の受信情報設定ファイル (ilo_jp.mtb、iml_jp.mtb) をダウンロードします。
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010100096>
ilo_jp.mtb、iml_jp.mtb は MGMTB.zip に包含しています。
- (2) 「エクスプレス通報サービス (MG) インストールガイド (Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で登録済みの受信情報を削除します。

- (3) (1)でダウンロードした最新版の受信情報設定ファイルを登録します。
「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド」は以下の URL からダウンロードしてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

◆ iLO ファームウェアのバージョン確認方法

- ・ Server Health Summary で確認する方法

サーバー本体の UID ボタンを押下して、サーバーに接続されたコンソールに表示される iLO Firmware のバージョンを確認します (Server Health Summary の詳細は iLO 5 ユーザーズガイド参照)。

- ・ ネットワーク経由で確認する方法

iLO にネットワーク接続可能な場合、ブラウザから iLO にログインして、メニュー「ファームウェア & OS ソフトウェア」から iLO のバージョンを確認します。

◆ ESMPRO/ServerManager (Windows 版) のバージョン確認方法

- (1) ESMPRO/ServerManager の WEB にログインします。
- (2) 画面右上の「ESMPRO/ServerManager について」のリンクを選択します。
- (3) 表示される ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を確認します。

◆ iLO 管理機能向けの受信情報設定ファイルのバージョン確認方法

「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド(Windows 編)」の「3.1.5 受信情報の設定」または「3.2.4 受信情報の設定」を参照して受信情報の設定画面で「詳細情報」が「iLO SNMP Trap」のバージョンを確認します。

● EXPRESSBUILDERヘルプについて

EXPRESSBUILDER のヘルプとメンテナンスガイドで記述が異なる場合は、メンテナンスガイドの方を優先してください。

■ 本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がありました場合は、下記ファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター

TEL : 0120-5800-72

受付時間 : 9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

※番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC



* CBZ-030969-001-02 *

2019年 12月 第4版